

中学校第1学年 社会科学習指導案

日 時 平成26年10月17日(金) 第2校時
指導者 教育センター所員 深川 泰弘

1 単元名 展開する天皇・貴族の政治(帝国書院)

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(2)イ、ウを受け、律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。また、日本の古代の文化が国際性豊かな文化から国風文化へと変容していく過程を、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して理解させることをねらいとしている。

本単元では、天皇や貴族を中心とする律令国家が確立していく過程を学習する上で、中国などの東アジア周辺諸国とのつながりを捉えておくことが重要であると考え。そこで、遣唐使の果たした役割について考えさせていくことで、当時の日本が政治や文化などあらゆる面で中国や東アジア周辺諸国の文物や制度を積極的に取り入れ、発展していったことに気付かせたい。また、遣唐使の派遣を停止したことについて、それまでの遣唐使の果たしてきた役割を基に考えさせることで、外国の制度や文物を学ぶ価値、様々な人々の立場から歴史的な事実を見つめさせることができる考える。

- 本学級の生徒は、事前調査では歴史的分野の学習について、「好き」29%、「どちらかといえば好き」32.3%、「あまり好きでない」29%、「好きでない」9.7%と回答している。歴史的分野の学習に対して興味のある生徒は、昔の時代や活躍した人物について自分が知らないことを追及していくことや自分の住む地域の歴史について調べることが面白いと回答している。一方で、覚える事が多いということに苦手意識をもっている生徒もいる。また、自分の考えを発表することに関しては、多くの生徒が苦手と回答しており、自分の考えを学級全体に伝えたり説明したりすることに抵抗を感じていることがうかがえる。
- 本単元では、古代の国家の歩みを当時の東アジア世界との関わりを踏まえて学習を進め、学習内容の中心に遣唐使を位置付ける。古代国家が確立していく過程で、隋や唐からもたらされた制度や文物の影響を強く受けていることを確認する。その中で、平安京に都が移り政治や社会、文化がどのように変化したかを理解させることをねらう学習課題Ⅰと生徒がそれまでに学習してきた内容を関連付け、遣唐使の果たした役割について考えることをねらう学習課題Ⅱを設定する。このようにして、遣唐使の停止についての意思決定を取り入れた討論型の学習を展開することで、単元の目標に迫っていきたい。

指導に当たっては、「つかむ」「調べる」の過程において、まず、平城京と平安京を比較させ、桓武天皇が平安京に都を移した理由を予想させる。その予想を基に学習課題Ⅰ「平安京に都が移り、政治や社会、文化はどのように変わったのだろうか。」を設定する。次に、生徒の予想を基に、桓武天皇が目指した政治について調べさせ、平城京では、貴族や僧の間での勢力争いが激しくなり、政治が混乱していたために新しい都で政治を立て直そうとしたことを理解させる。また、藤原氏が摂政、関白といった官職を独占し、摂関政治を行ったことを理解させるとともに、唐の律令制度を基本としながら日本に合った制度に変化していたことを理解させたい。仏教については、遣唐使とともに唐に渡った最澄と空海が、新しい仏教を伝え天皇や貴族の間で信仰されていたことを理解させながら学習課題Ⅰをまとめていく。その後、菅原道真の提案により遣唐使が停止

されたことについて、自分が、遣唐使の派遣について意見を求められたらどのように答えるかをこれまでの遣唐使の果たしてきた役割を基に考えさせ、意見交換をさせることで、学習課題Ⅱ「遣唐使は、停止すべきだったのか。」を導き出す。「考え・まとめる」過程においては、これを論題に議論させ、意思決定を迫る。これにより、遣唐使の果たした役割について考えを深めさせたい。このように、学習した内容を活用させることで、当時の日本が政治や文化などあらゆる面で中国や東アジア周辺諸国の文物や制度を積極的に取り入れ、発展していったことを理解させ、古代の日本の特色を捉えさせたい。

3 単元の見目標

- (1) 律令制度や撰関政治の仕組みが整い、天皇や貴族の政治が展開されたことに課題意識をもたせ、国際的な要素をもった文化が後に国風化したことに対する関心を高め、意欲的に追究させる。
- (2) 貴族が政治の実権をにぎった理由や文化の国風化が進んだ背景を考察させるとともに、文化を担った人々に着目させ、文化の特色について多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 律令制度や撰関政治など天皇や貴族の政治、国風文化が生まれた背景とその文化の特色について、様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 律令制度や撰関政治の仕組みが整い、天皇や貴族の政治が展開されたことや国際的な要素をもった文化が後に国風化することなどの特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<p>○律令国家の確立と天皇や貴族の政治が展開されたことに課題意識をもって追究しようとする。</p> <p>○文化の国風化について関心を高め、意欲的に追究し、古代の特色を捉えようとするとともに、古代までの文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>○貴族が政治の実権をにぎった理由や文化の国風化が進んだ背景を考察し、適切に表現している。</p> <p>○文化を担った人々に着目し、文化の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>○律令制度や撰関政治など天皇や貴族の政治に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>○国風文化が生まれた背景とその文化の特色について、代表的な例を挙げながらまとめている。</p>	<p>○律令制度や撰関政治の仕組みが整い、天皇や貴族の政治が展開されたことを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>○国際的な要素をもった文化が、後に国風化する背景と特色について理解し、その知識を身に付けている。</p>

5 単元計画 (全6時間 本時5/6)

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
つかむ	○桓武天皇が都を平安京に移し、どのような政治を行ったのかを確認する。	○平安京に都を移した理由を考えさせ、桓武天皇の行った政治について理解させる。	・桓武天皇が平安京に都を移した理由や東北地方への支配の広がりについて理解している。 【知】	1
	○東北地方へ支配を拡大したことについて資料から読み取る。 ○平安京に都が移り、律令国家がどのように変化していくのかを追究する学習問題を設定する。	○坂上田村麻呂や蝦夷との戦いから、東北地方への支配の広がりについて気付かせる。 ○奈良時代との政治や文化との比較を通して、平安時代の政治や文化の変化に気付かせる。	・平安京に都が移り、律令国家がどのように変化していくのかを意欲的に追究している。 【関】	
	平安京に都が移り、政治や社会、文化はどのように変わったのだろうか。(学習課題I)			
調べる	○平安時代には、貴族が朝廷の政治の実権をにぎるようになったことを理解する。	○系図から娘を天皇の后としたことを読み取らせ、生まれた子どもを天皇にして、摂政や関白として政治を行ったことを理解させる。	・貴族の藤原氏が政治の実権をにぎり、それを維持することができた理由を、系図などの資料を基に適切に説明している。【思】	1
	○藤原氏が政治の実権をにぎり続けることができた理由を、系図などの資料を通して考える。			
	○最澄・空海が中国からもたらした新しい仏教が、天皇や貴族に信仰されるようになったことを理解する。	○平安時代の仏教(密教)が現世利益を重視し、祈祷やまじないを取り入れたことで、天皇や貴族に広まったことを理解させる。	・最澄や空海が唐からもたらした新しい仏教が、天皇や貴族に信仰されようになったことや奈良時代までの仏教との違いについて理解している。【知】	1
	○唐風の文化を基礎とした日本独自の文化が生まれてきたことを理解する。	○唐風の文化を基礎にした日本独自の文化が生まれてきたことに気付かせる。	・仮名文字の成立や代表的な文学作品を取り上げ、この時代の文化の特色をまとめている。 【技】	1
	○菅原道真の提案により、遣唐使が停止されたことが、日本にとってよかったのかを考える。	○政治や文化の視点から遣唐使の果たした役割と日本の政治や文化に与えた影響を考えさせる。	・遣唐使の果たした役割と日本に与えた影響を考え、遣唐使の派遣について、考えたことを自分の言葉でまとめ表現している。【思】	1 本時 (5/6)
	○遣唐使を停止した場合と続けていた場合の日本に与える影響について、これまでの学習を振り返りながら考える。			

	○当時の貴族という場面設定で、遣唐使の派遣について意見するとしたら、どのように意見するかを考え、意思決定を行う。	○整理しまとめたことを基に、遣唐使の派遣について自分の意見を進言するという場面設定で考えさせる。	○遣唐使の派遣について、停止するか続けるかを判断し、自分の考えを表現している。 【思】	
	遣唐使は、停止すべきだったのか。（学習課題Ⅱ）			
考え ・ ま と め る	○討論を通して、遣唐使の果たした役割について多面的・多角的に考え最終的な意思決定を行う。	○理由や根拠を明らかにさせ、自分の意見を発表させる。 ○様々な意見を聞いたり、質問したりすることで、公正に判断させ、意思決定をさせる。	・様々な意見を聞き、判断した上で、自分の考えを表現している。 【思】	1

6 本時の目標

遣唐使の果たした役割を考え、その派遣について続けるべきか、停止すべきかを判断し、自分の考えを適切に表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）

7 指導の視点

言語活動の充実を図るために、歴史的分野の学習では、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動や、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子を捉える学習などを通じて、歴史的事象について考察・判断しその成果を自分の言葉で表現する学習が重視されている。本時においては、これまでの学習内容から、遣唐使の果たしてきた役割について考えることで、古代の日本の特色を大観させたい。学習活動の中で、遣唐使の派遣について考えさせることで、歴史的事象について考察・判断し、自分の考えをもたせたい。また、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりすることで、学習内容の理解の深まりを目指したい。

8 展開(全6時間 本時5/6)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 前時の学習を振り返る。＜学級全体＞ ・学習課題Ⅰの追究結果を振り返る。 ・これまでの日本の発展には、遣唐使の活躍があったことを確認する。	○かな文字などの資料を提示し、唐風の文化を基礎に日本の貴族の生活や好みに合わせた独自の文化がみられるようになったことを振り返らせる。 ○これまでの学習を振り返り、唐の影響を受けながら政治や文化が発展してきたことを確認し、遣唐使の果たした役割について考えることを確認させる。
2 菅原道真の提案を読み、その内容を確認する。＜学級全体＞ ・唐の国内の混乱、渡航の困難などを資料から読み取る。 ・本時のめあてをもつ。	○菅原道真の提案(資料)を読ませる。唐の国力が衰退していること、航海の危険について書かれていることを読み取らせる。
めあて 遣唐使を停止したことは、日本にとってよかったのか考えよう。	

社会的な問題《研究や論争となる事件》

遣唐使を停止したこと

3 遣唐使として活躍した人物や唐から来日した人物について確認する。

〈学級全体〉

- ・吉備真備，阿倍仲麻呂，最澄，空海
- ・鑑真

○遣唐使として活躍した人物の中には、吉備真備のように後に右大臣となった人物がいたことや最澄や空海のように新しい仏教を広めた人物がいたことを確認し、遣唐使を派遣することのプラス面に注目させる。

○阿倍仲麻呂のように唐から帰国できなかったことや、鑑真のように何度も渡航に失敗し苦勞の末に来日したことなどがあったことを紹介し、当時の造船、渡航の技術が未熟であり、命の危険があったということに気付かせる。

4 遣唐使を停止する場合と続ける場合の日本への影響について考える。

〈グループ，個人〉

○遣唐使の果たした役割を基に、停止した場合と続ける場合の日本への影響を考えさせる。その際、国づくりへの影響、文化や仏教の発展への影響などの視点から考えさせる。

〈予想される記入例〉

日本への影響	派遣を停止した場合	派遣を続けた場合
国づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・国づくりの手本がなくなる。 ・日本にあった制度ができる。 ・中国との関係が悪くなる。 ・優秀な人材を失わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んだ制度が伝わる。 ・周辺の国の情報が分かる。 ・中国との関係が保たれる。 ・優秀な人材が育成される。
文化	<ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の文化が発達する。 ・外国の情報が伝わらなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルクロードを通じて、国際色豊かな文化が発達する。 ・日本独自の文化が発達しない。

5 自分が当時の貴族なら、遣唐使の派遣についてどのように意見するか考えまとめる。(意思決定1)

〈個人〉

○当時の貴族という設定で、自分なら遣唐使の派遣についてどのように意見するかをこれまでの学習を基に理由を付けて書かせる。【評価】

6 今日の学習を振り返る。

〈学級全体〉

○生徒それぞれの意思決定を交流させる。これにより、考えの違いを基に学習課題Ⅱの論題を導き出す。

学習課題Ⅱ 遣唐使は、停止すべきだったのか。

7 次時の学習について、確認する。

○次時は導き出した学習課題Ⅱについて討論することを知らせる。

9 本時の評価

評価規準	遣唐使の果たした役割を考え、その派遣について続けるべきか、停止すべきかを判断し、自分の考えを適切に表現している。(社会的な思考・判断・表現)		
判断するめやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	遣唐使の派遣について、続けるべきか、停止すべきかを判断し、意思決定を行い、根拠を基に理由を付けて自分の考えを記述している。	遣唐使の派遣について、続けるべきか、停止すべきかを判断し、意思決定を行い、自分の考えを記述している。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した生徒への支援		→どうしてそう考えたのかを根拠を基に理由を付けて書くように指示する。	→板書、ワークシートを基に、遣唐使の果たした役割について確認させ、意思決定させる。
評価方法	ワークシートの記述		